

タイトル「2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	企業広報特講		
担当教員	勝股 秀通		
対象学年	2年	開講学期	前期
曜日・時限	月 4		
講義室	1407	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	講義・発展		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■ DPコード・学修のゴールを示すディプロマポリシー(ぼとの関連)</p> <p>DP1[意欲・経験・適性]災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（30%）</p> <p>DP2[学識・専門技能]災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（15%）</p> <p>DP3[思考力・判断力・表現力]客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（15%）</p> <p>DP4[主体性・多様性・協調性]多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えのもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（40%）</p>		
教員の実務経験	<p>担当教員は長年、全国紙の新聞記者として、警察や裁判所などの司法当局、防衛省と陸海空自衛隊、さらには様々な企業や組織取材する中で、各々の情報発信（広報）の場面に立ち会い、その優劣はもとより、情報を発信することに対する意識の違いを目の当たりにしてきました。そうした経験に基づき、企業や組織が不祥事やトラブル、事故、災害などのリスクに直面した際に必要とされる対応、社会の共感を得るために必要な手立てについて実践的な視点から講義を行います。</p> <p>企業や組織が情報発信する広報においては、企業や組織はマスメディアとの関係を日ごろからどのように構築し、マスメディアは不祥事や事故の際にどのような行動を取るかということ、広報の担当者は把握しておく必要があります。特に4回、5回、6回の授業及び9回～14回までの授業では、実務経験に基づく具体的な場面などを説明するとともに、企業とメディア双方の視点を組み合わせながら進めていきます。</p>		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	<p>授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■ キーワード 広報戦略 危機の種 記者会見 想定質問 利害関係者 企業の社会的責任</p>		
授業の趣旨	<p>■ 副題 企業（組織）はなぜ失敗を繰り返すのか。広報戦略の大切さを知ろう。</p> <p>■ 授業の目的 広報、すなわちパブリックリレーションズ（PR）の今日的なメインストリームとなった危機管理広報について、具体的な事例に基づき、ソーシャルメディアを含む戦略的広報の現状と課題を理解する。特に不祥事や企業（組織）が直面する危機における謝罪や説明会見のあり方は中心的なテーマであり、危機管理の視点から深掘りする。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とする。</p> <p>■ 授業のポイント 企業（組織）にとって何が危機になるのか。常に社会の動きや関心に敏感であり続けることに加え、危機に際して、どのような情報を誰（利害関係者）に対して発信するか、について具体的な事例を学んだうえで、自らが危機管理広報を担う立場になって、的確な情報発信ができることを目指す。</p>		
総合到達目標	<p>■ 「危機」は、企業・団体・自治体などどのような組織にも突然訪れる。その時、状況を冷静に把握、判断し、情報発信や記者会見の準備など危機管理広報に必要な対応を取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業・団体・自治体など個々の組織にとってのリスク（潜在危機）を洗い出すことができる。 洗い出したリスクを予防、抑制することができる。 SNS時代における情報の収集と分析の重要性を理解することができる。 危機に直面した場合の対応マニュアルを作成することができる。 プレスリリースの作成など危機におけるメディア対応に取り組むことができる。 記者会見などメディアトレーニングを通じて、利害関係者（ステークホルダー）への思いを発信することができる。 マスコミを通じて情報を発信することの責任の重さを意識することができる。 		
成績評価方法	<p>■ 授業内の発表など（70%）（DP-1,2,3,4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報戦略など危機管理広報の目的と意味への理解（第2回） SNS時代における情報収集と分析についての発表（第3回、第4回） リスク（潜在危機）についての発表（第5回、第6回、第7回） 事例研究についての発表（第8回、第9回） プレスリリース、ポジションペーパーの作成（第10回、第11回） 模擬記者会見の対応（第12回、第13回、第14回） <p>（評価の観点） 発表する内容についての理解の有無、及び表現力とコミュニケーション能力について総合的に評価します。 （フィードバックの方法） 各自の発表後、授業時間内に評価、議論します。</p> <p>■ 授業参加（30%）（DP-1,2,3,4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表者に対するコメントや意見交換、問いの立て方 		

	(評価の観点) 発表者に気づきや改善を促すようなものであるかを評価します。 (フィードバックの方法) 授業時間内に適宜評価、議論します。																				
履修条件	特になし																				
履修上の注意点	毎回、授業で取り上げる事例について、新聞報道を中心にしっかりと下調べをして授業に臨むこと。																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>①授業テーマ ガイダンス・企業（組織）はなぜ失敗を繰り返すのか ②授業概要 企業広報を学ぶ目的として、「危機（非常時）における情報発信のノウハウの習得」が挙げられる。危機こそ広報の真価が問われる場面だからだが、同時に、危機に強い組織づくりについても考えなければならない。 ガイダンスでは、象徴的な事例として、2023年に露呈した日本大学アメリカンフットボール部の違法薬物事案に対する大学当局の対応を取り上げ、「危機管理広報の重要性」と「組織体質を見直す必要性」について理解することを目的とする。 ③予習（120分） 具体的な事例で取り上げる日本大学の違法薬物事案に対する対応について、記者会見を扱った記事を読み、大学の対応とメディアの受け取り方を調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、広報対応の問題点について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>②授業テーマ 広報戦略とは何か ②授業概要 危機管理広報の目的は企業の信頼を喪失させないことであり、その目的を達成するための手段が広報戦略である。事例としては、1990年代に発生したゼネコン汚職事件で失った信頼、社員やその家族のモチベーションを上げるために大成建設が取り組んだ広報が、「地固に残る仕事」をキャッチコピーに、マスメディアを通じて情報を届ける広報展開となったケース。このほか、九州新幹線の開業日前日に東日本大震災の発生という窮地に陥ったJR九州の広報対応についても検討し、共感を生む広報とは何かを理解する。 ③予習（120分） ゼネコン汚職事件で建設大手各社の社会的評価がどのように変化したのかについて、当時の新聞記事などから調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返りながら、分割民営化当時、赤字会社であったJR九州が利益を上げ、鉄道各社の中で存在感を高め、評価されてきた経緯について、同社の広報戦略を確認しておく。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>①授業テーマ 現代のメディア構造を学ぶ ②授業概要 「敵を知り己を知れば百戦してあやうからず」ー孫氏の兵法ではないが、広報においては、リアルメディア（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）とインターネットが融合する現代のメディア構造を理解しなければならない。創業者の性加害問題への対応で批判を浴びた「ジャーニーズ」社の記者会見を事例に、メディアは会見内容をどのように取り上げたのかを比較検証することで、メディアの特徴を把握することを目的とする。 ③予習（120分） ジャーニーズ社の記者会見に対するメディアの反応について、新聞やSNSなどでどのように扱われたのかを調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、各種メディアの特徴的な違いについて自分の言葉で言語化できるようにしておく。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>①授業テーマ ネットメディアの拡散力 ②授業概要 「保育園落ちた日本死ね」のツイッターで日本の政策が変わったように、2018年に発生した日大アメフト部の危険タックル問題は、ネットメディアが発火点となってリスクが顕在化した典型例であり、SNS（交流サイト）への投稿が危機となるケースは続出している。具体的事例から、ネットメディアの拡散力を認識し、対応の重要性を理解する。 ③予習（120分） 危険タックル問題では、情報はどのような推移で広がっていったのか、当時の新聞記事などから発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、ネットメディアの情報を日常的に収集、分析する必要性について理解しておく。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>①授業テーマ 現代社会における「危機の種」を探す（1） ②授業概要 企業（組織）にとってリスクを評価する上で、大切な視点は、「外部リスク」と「内部リスク」に分けて考えること。最初は「自然災害」や「カントリーリスク」、「政治や経済に起因する事象」といった外部リスクを取り上げ、リスク管理（サプライチェーンやBCP策定）の必要性と課題について考える。 ③予習（120分） 災害時にサプライチェーン確保の重要性が指摘されたケースを調べ、発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、外部リスクに対してそのような備えが必要か、危機に直面した場合の広報対応まで視野を広げて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>②授業テーマ 現代社会における「危機の種」を探す（2） ②授業概要 「危機の種」の2回目は、内部リスクについて考える。内部リスクを「業務活動に伴うリスク」と「コンプライアンス」に分け、業務活動では2023年に発覚した「四谷大塚」の元教師による盗撮事件を、コンプライアンスについては、「ベネッセ」社の情報流出事件をそれぞれ取り上げ、リスク管理の手法について考察する。 ③予習（120分） 授業で取り上げる二つのケースについて、当時の報道などから事案の内容を把握するとともに、その後の記者会見を通じてリスク管理についても調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認するとともに、社会の変化に即応して「危機の種」も変化していることを理解し、備えておくことの重要性について自分の言葉で言語化できるようにしておく。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>①授業テーマ 「予見ー回避ー損害軽減」のサイクルを回す ②授業概要 外部リスクと内部リスクを理解したうえで、「知床遊覧船」の遭難・死亡事故を事例に、リスク管理をまとめる手立てとして、危機対応の強化策（損害軽減）の重要性について考える。 ③予習（120分） 「知床遊覧船」の事故内容について、当時の報道を丹念に調べ、会社の事前対応と事故後の対応について発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、危機の種を予見し、回避する手立てを講じ、それでも危機が起きた場合に備えることの重要性を、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>①授業テーマ 記者会見（事例研究）（1） ②授業概要 事例研究の最初は「ビッグモーター」社の保険金不正請求事件を取り上げる。問題の発覚から会見に至る経緯を振り返りながら、ビ社の記者会見では何が問題だったのか。特に利害関係者の視点から考察する。 ③予習（120分） 2023年に発覚したビ社の事案について、記者会見の内容を中心に調べ、利害関係者をリストアップしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、会見では利害関係者に対し、どのようなメッセージを発する必要があるのか等について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>①授業テーマ 記者会見（事例研究）（2） ②授業概要 事例研究の2回目は、コロナ禍で支援金を不正請求し、詐取した大手旅行代理店の「HIS」と「近畿日本ツーリスト」のケースを取り上げる。企業としてのガバナンスとコンプライアンスが正面から問われた事案であり、企業にとってのリスク管理の重要性について理解する。 ③予習（120分） 授業で取り上げる事例について、記者会見における会社側の弁明などを中心にまとめ、問題点を発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、メディアはリスク管理の甘さをどのように指摘していたのかを理解しておく。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス・企業（組織）はなぜ失敗を繰り返すのか ②授業概要 企業広報を学ぶ目的として、「危機（非常時）における情報発信のノウハウの習得」が挙げられる。危機こそ広報の真価が問われる場面だからだが、同時に、危機に強い組織づくりについても考えなければならない。 ガイダンスでは、象徴的な事例として、2023年に露呈した日本大学アメリカンフットボール部の違法薬物事案に対する大学当局の対応を取り上げ、「危機管理広報の重要性」と「組織体質を見直す必要性」について理解することを目的とする。 ③予習（120分） 具体的な事例で取り上げる日本大学の違法薬物事案に対する対応について、記者会見を扱った記事を読み、大学の対応とメディアの受け取り方を調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、広報対応の問題点について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。	2	②授業テーマ 広報戦略とは何か ②授業概要 危機管理広報の目的は企業の信頼を喪失させないことであり、その目的を達成するための手段が広報戦略である。事例としては、1990年代に発生したゼネコン汚職事件で失った信頼、社員やその家族のモチベーションを上げるために大成建設が取り組んだ広報が、「地固に残る仕事」をキャッチコピーに、マスメディアを通じて情報を届ける広報展開となったケース。このほか、九州新幹線の開業日前日に東日本大震災の発生という窮地に陥ったJR九州の広報対応についても検討し、共感を生む広報とは何かを理解する。 ③予習（120分） ゼネコン汚職事件で建設大手各社の社会的評価がどのように変化したのかについて、当時の新聞記事などから調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返りながら、分割民営化当時、赤字会社であったJR九州が利益を上げ、鉄道各社の中で存在感を高め、評価されてきた経緯について、同社の広報戦略を確認しておく。	3	①授業テーマ 現代のメディア構造を学ぶ ②授業概要 「敵を知り己を知れば百戦してあやうからず」ー孫氏の兵法ではないが、広報においては、リアルメディア（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）とインターネットが融合する現代のメディア構造を理解しなければならない。創業者の性加害問題への対応で批判を浴びた「ジャーニーズ」社の記者会見を事例に、メディアは会見内容をどのように取り上げたのかを比較検証することで、メディアの特徴を把握することを目的とする。 ③予習（120分） ジャーニーズ社の記者会見に対するメディアの反応について、新聞やSNSなどでどのように扱われたのかを調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、各種メディアの特徴的な違いについて自分の言葉で言語化できるようにしておく。	4	①授業テーマ ネットメディアの拡散力 ②授業概要 「保育園落ちた日本死ね」のツイッターで日本の政策が変わったように、2018年に発生した日大アメフト部の危険タックル問題は、ネットメディアが発火点となってリスクが顕在化した典型例であり、SNS（交流サイト）への投稿が危機となるケースは続出している。具体的事例から、ネットメディアの拡散力を認識し、対応の重要性を理解する。 ③予習（120分） 危険タックル問題では、情報はどのような推移で広がっていったのか、当時の新聞記事などから発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、ネットメディアの情報を日常的に収集、分析する必要性について理解しておく。	5	①授業テーマ 現代社会における「危機の種」を探す（1） ②授業概要 企業（組織）にとってリスクを評価する上で、大切な視点は、「外部リスク」と「内部リスク」に分けて考えること。最初は「自然災害」や「カントリーリスク」、「政治や経済に起因する事象」といった外部リスクを取り上げ、リスク管理（サプライチェーンやBCP策定）の必要性と課題について考える。 ③予習（120分） 災害時にサプライチェーン確保の重要性が指摘されたケースを調べ、発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、外部リスクに対してそのような備えが必要か、危機に直面した場合の広報対応まで視野を広げて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。	6	②授業テーマ 現代社会における「危機の種」を探す（2） ②授業概要 「危機の種」の2回目は、内部リスクについて考える。内部リスクを「業務活動に伴うリスク」と「コンプライアンス」に分け、業務活動では2023年に発覚した「四谷大塚」の元教師による盗撮事件を、コンプライアンスについては、「ベネッセ」社の情報流出事件をそれぞれ取り上げ、リスク管理の手法について考察する。 ③予習（120分） 授業で取り上げる二つのケースについて、当時の報道などから事案の内容を把握するとともに、その後の記者会見を通じてリスク管理についても調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認するとともに、社会の変化に即応して「危機の種」も変化していることを理解し、備えておくことの重要性について自分の言葉で言語化できるようにしておく。	7	①授業テーマ 「予見ー回避ー損害軽減」のサイクルを回す ②授業概要 外部リスクと内部リスクを理解したうえで、「知床遊覧船」の遭難・死亡事故を事例に、リスク管理をまとめる手立てとして、危機対応の強化策（損害軽減）の重要性について考える。 ③予習（120分） 「知床遊覧船」の事故内容について、当時の報道を丹念に調べ、会社の事前対応と事故後の対応について発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、危機の種を予見し、回避する手立てを講じ、それでも危機が起きた場合に備えることの重要性を、自分の言葉で言語化できるようにしておく。	8	①授業テーマ 記者会見（事例研究）（1） ②授業概要 事例研究の最初は「ビッグモーター」社の保険金不正請求事件を取り上げる。問題の発覚から会見に至る経緯を振り返りながら、ビ社の記者会見では何が問題だったのか。特に利害関係者の視点から考察する。 ③予習（120分） 2023年に発覚したビ社の事案について、記者会見の内容を中心に調べ、利害関係者をリストアップしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、会見では利害関係者に対し、どのようなメッセージを発する必要があるのか等について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。	9	①授業テーマ 記者会見（事例研究）（2） ②授業概要 事例研究の2回目は、コロナ禍で支援金を不正請求し、詐取した大手旅行代理店の「HIS」と「近畿日本ツーリスト」のケースを取り上げる。企業としてのガバナンスとコンプライアンスが正面から問われた事案であり、企業にとってのリスク管理の重要性について理解する。 ③予習（120分） 授業で取り上げる事例について、記者会見における会社側の弁明などを中心にまとめ、問題点を発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、メディアはリスク管理の甘さをどのように指摘していたのかを理解しておく。
回	内容																				
1	①授業テーマ ガイダンス・企業（組織）はなぜ失敗を繰り返すのか ②授業概要 企業広報を学ぶ目的として、「危機（非常時）における情報発信のノウハウの習得」が挙げられる。危機こそ広報の真価が問われる場面だからだが、同時に、危機に強い組織づくりについても考えなければならない。 ガイダンスでは、象徴的な事例として、2023年に露呈した日本大学アメリカンフットボール部の違法薬物事案に対する大学当局の対応を取り上げ、「危機管理広報の重要性」と「組織体質を見直す必要性」について理解することを目的とする。 ③予習（120分） 具体的な事例で取り上げる日本大学の違法薬物事案に対する対応について、記者会見を扱った記事を読み、大学の対応とメディアの受け取り方を調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、広報対応の問題点について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。																				
2	②授業テーマ 広報戦略とは何か ②授業概要 危機管理広報の目的は企業の信頼を喪失させないことであり、その目的を達成するための手段が広報戦略である。事例としては、1990年代に発生したゼネコン汚職事件で失った信頼、社員やその家族のモチベーションを上げるために大成建設が取り組んだ広報が、「地固に残る仕事」をキャッチコピーに、マスメディアを通じて情報を届ける広報展開となったケース。このほか、九州新幹線の開業日前日に東日本大震災の発生という窮地に陥ったJR九州の広報対応についても検討し、共感を生む広報とは何かを理解する。 ③予習（120分） ゼネコン汚職事件で建設大手各社の社会的評価がどのように変化したのかについて、当時の新聞記事などから調べておく。 ④復習（120分） 授業を振り返りながら、分割民営化当時、赤字会社であったJR九州が利益を上げ、鉄道各社の中で存在感を高め、評価されてきた経緯について、同社の広報戦略を確認しておく。																				
3	①授業テーマ 現代のメディア構造を学ぶ ②授業概要 「敵を知り己を知れば百戦してあやうからず」ー孫氏の兵法ではないが、広報においては、リアルメディア（新聞・テレビ・ラジオ・雑誌）とインターネットが融合する現代のメディア構造を理解しなければならない。創業者の性加害問題への対応で批判を浴びた「ジャーニーズ」社の記者会見を事例に、メディアは会見内容をどのように取り上げたのかを比較検証することで、メディアの特徴を把握することを目的とする。 ③予習（120分） ジャーニーズ社の記者会見に対するメディアの反応について、新聞やSNSなどでどのように扱われたのかを調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、各種メディアの特徴的な違いについて自分の言葉で言語化できるようにしておく。																				
4	①授業テーマ ネットメディアの拡散力 ②授業概要 「保育園落ちた日本死ね」のツイッターで日本の政策が変わったように、2018年に発生した日大アメフト部の危険タックル問題は、ネットメディアが発火点となってリスクが顕在化した典型例であり、SNS（交流サイト）への投稿が危機となるケースは続出している。具体的事例から、ネットメディアの拡散力を認識し、対応の重要性を理解する。 ③予習（120分） 危険タックル問題では、情報はどのような推移で広がっていったのか、当時の新聞記事などから発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、ネットメディアの情報を日常的に収集、分析する必要性について理解しておく。																				
5	①授業テーマ 現代社会における「危機の種」を探す（1） ②授業概要 企業（組織）にとってリスクを評価する上で、大切な視点は、「外部リスク」と「内部リスク」に分けて考えること。最初は「自然災害」や「カントリーリスク」、「政治や経済に起因する事象」といった外部リスクを取り上げ、リスク管理（サプライチェーンやBCP策定）の必要性と課題について考える。 ③予習（120分） 災害時にサプライチェーン確保の重要性が指摘されたケースを調べ、発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、外部リスクに対してそのような備えが必要か、危機に直面した場合の広報対応まで視野を広げて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。																				
6	②授業テーマ 現代社会における「危機の種」を探す（2） ②授業概要 「危機の種」の2回目は、内部リスクについて考える。内部リスクを「業務活動に伴うリスク」と「コンプライアンス」に分け、業務活動では2023年に発覚した「四谷大塚」の元教師による盗撮事件を、コンプライアンスについては、「ベネッセ」社の情報流出事件をそれぞれ取り上げ、リスク管理の手法について考察する。 ③予習（120分） 授業で取り上げる二つのケースについて、当時の報道などから事案の内容を把握するとともに、その後の記者会見を通じてリスク管理についても調べておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認するとともに、社会の変化に即応して「危機の種」も変化していることを理解し、備えておくことの重要性について自分の言葉で言語化できるようにしておく。																				
7	①授業テーマ 「予見ー回避ー損害軽減」のサイクルを回す ②授業概要 外部リスクと内部リスクを理解したうえで、「知床遊覧船」の遭難・死亡事故を事例に、リスク管理をまとめる手立てとして、危機対応の強化策（損害軽減）の重要性について考える。 ③予習（120分） 「知床遊覧船」の事故内容について、当時の報道を丹念に調べ、会社の事前対応と事故後の対応について発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、危機の種を予見し、回避する手立てを講じ、それでも危機が起きた場合に備えることの重要性を、自分の言葉で言語化できるようにしておく。																				
8	①授業テーマ 記者会見（事例研究）（1） ②授業概要 事例研究の最初は「ビッグモーター」社の保険金不正請求事件を取り上げる。問題の発覚から会見に至る経緯を振り返りながら、ビ社の記者会見では何が問題だったのか。特に利害関係者の視点から考察する。 ③予習（120分） 2023年に発覚したビ社の事案について、記者会見の内容を中心に調べ、利害関係者をリストアップしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、会見では利害関係者に対し、どのようなメッセージを発する必要があるのか等について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。																				
9	①授業テーマ 記者会見（事例研究）（2） ②授業概要 事例研究の2回目は、コロナ禍で支援金を不正請求し、詐取した大手旅行代理店の「HIS」と「近畿日本ツーリスト」のケースを取り上げる。企業としてのガバナンスとコンプライアンスが正面から問われた事案であり、企業にとってのリスク管理の重要性について理解する。 ③予習（120分） 授業で取り上げる事例について、記者会見における会社側の弁明などを中心にまとめ、問題点を発表できるようにしておく。 ④復習（120分） 授業内容を確認し、メディアはリスク管理の甘さをどのように指摘していたのかを理解しておく。																				

10	<p>①授業テーマ 危機発生 (1) 初動対応の大切さ</p> <p>②授業概要 架空の交通事故もしくは自社工場での火災などを事例に、迅速かつ的確な初動対応について考える。具体的には、企業内の危機対応組織を動かし、利害関係者をきちんと洗い出した上で、危機対応のサイクルを動かすことだが、同時に、メディアからの電話取材に備えたホールディングコメントの作成、記者会見の設定までの流れを理解する。</p> <p>③予習 (120分) 事前に配布する資料をよく読み、利害関係者を洗い出し、どのようなメッセージが必要かについて発表できるようにしておく。</p> <p>④復習 (120分) 授業内容を確認し、広報担当者としての立場から、危機の発生から記者会見に至る流れをしっかりと理解しておく。</p>
11	<p>①授業テーマ 危機発生 (2) プレスリリースとポジションペーパーの作成</p> <p>②授業概要 記者会見に合わせ、架空の交通事故もしくは自社工場における火災等を事例に、状況の推移、対応の経過をまとめた「ポジションペーパー」(お手持ち資料)と公表資料としての「プレスリリース」も作成する。その際に重要となる視点は、企業としてのスタンスを決め、トップが何を語るのかをしっかりと打ち合わせておくことを理解する。</p> <p>③予習 (120分) 事前に配布する資料に基づき、ポジションペーパーを作成し、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習 (120分) 授業内容を確認し、ポジションペーパーの作成に必要な企業としての対応について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
12	<p>①授業テーマ 危機発生 (3) メディアは記者会見をどう取材するのか</p> <p>②授業概要 事前に配布する記者会見を報じた新聞記事をよく読み、記事や記事の見出しなどから、メディアの取材の狙いについて理解し、会見における「想定質問」を作成できるようにする。</p> <p>③予習 (120分) 事前に配布する新聞記事をよく読み、少なくとも10個の想定質問を考え、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習 (120分) 授業内容を確認し、別の不祥事会見等の事例から想定質問を考えられるようにしておく。</p>
13	<p>①授業テーマ 模擬記者会見 (1)</p> <p>②授業概要 企業サイドと記者サイドに分かれ、事前に配布した資料に基づき、役割に応じた対応を準備し、模擬の記者会見を開く。</p> <p>③予習 (120分) これまでの授業を振り返りながら、企業側と記者側に分かれ、記者会見に必要な準備をしてくること。</p> <p>④復習 (120分) 1回目の会見の問題点を整理し、2回目の記者会見に備えること。</p>
14	<p>①授業テーマ 模擬記者会見 (2)</p> <p>②授業概要 前回の立場を交代し、模擬の記者会見を実施する。</p> <p>③予習 (120分) 記者会見に必要な準備をしてくること。</p> <p>④復習 (120分) 2回の記者会見を通して理解した課題や問題点について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
15	<p>①授業テーマ 企業広報特講のまとめ (総合試験)</p> <p>②授業概要 架空の事件・事故をテーマに、危機における初動対応の留意点をまとめ、利害関係者へのメッセージを作成する。</p> <p>③予習 (120分) 最近の企業の不正報告書を読み解き、企業リスクの広がり等について理解しておく。</p> <p>④復習 (120分) これまでの授業を振り返り、危機発生の前から危機発生後、記者会見という流れを念頭に、危機管理広報のマニュアルが作成できるようにする。</p>
関連科目	「企業リスクマネジメント」(R5MR0017)、「レピュテーションリスク実務特講」(R5MR0026)
教科書	特になし
参考書・参考URL	安岡孝司(2020)『企業不正の調査報告書を読む』(日経BP) 樋口晴彦(2012)『組織不祥事研究』(白桃書房) 大槻茂(2013)『危機管理と広報』(彩流社) 井之上喬(2009)『説明責任とは何か』(PHP研究所) 勝股秀通(2020)「危機管理広報のあるべき姿」『危機管理学研究第4号』(日本大学危機管理学部危機管理学研究所)
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に伝えます。</p> <p>■オフィスアワー メールで事前にアポイントメントを取ることで、適宜対応します。</p>
研究比率	

